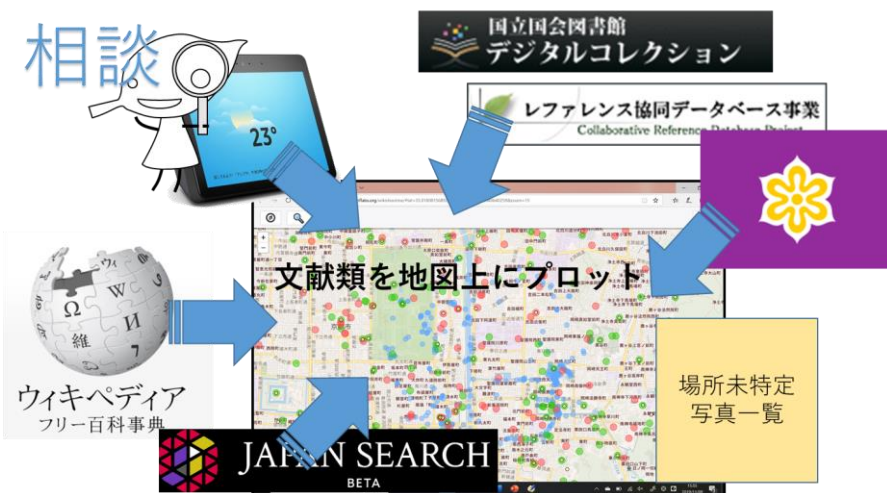


# れはっちが手伝う ウィキペディア編集支援ツール

生活・文化・地域アーカイブ

レファレンス協同データベースのマスコットキャラクター『れはっち』が手伝ってくれるウィキペディア編集支援ツール

## アイデアの概要



### • 発想のキッカケ

※ウィキペディアの地域に関する未編集トピックを簡単に見つけたい。

※ウィキペディア編集に役立つ出典資料を探すのが難しい。

※ウィキペディアタウンのコース作りに役立つツールが欲しい。



### • こう変わる！

※ウィキペディアの執筆が気軽にできるようになり、ウィキペディアがさらに充実する。

※郷土の文化・資料の掘り起こしが進み、街の魅力への理解が深まる。

※ウィキペディアタウンが活性化する。

# れはっちが手伝う ウィキペディア編集支援ツール

生活・文化・地域アーカイブ

## 作品の概要紹介

全国に浸透しつつあるウィキペディアタウン。実施の際には地域の資料も大活躍する。ただいざ実施しようとする、未編集のトピックの発見、関連文献の調査、コースの設定など、手間のかかるタスクは多く、猫の手も借りたい、と思うことも多々。

本作品では、レファレンス協同データベースのマスターキャラクター「れはっち」が、バーチャルライブコリアンとなり、ウィキペディアタウンをトータルに支援する。

地図にアクセスすると、地域の名勝・遺跡・公園などが表示される。チェックボックスの操作一つで、ウィキペディアの項目の有無、記事の信頼性（参考文献の充実度）、画像データの有無、そして関連するレファレンス事例の有無を表示／非表示できる。さらに、サムネイル画面では、その地域に関連しそうなパブリックドメインの古写真を表示。場所の特定ができれば、ウィキペディアに組み込める。

関連文献の収集を開始しようと思ったら、まずはれはっちに質問。資料はある？と問うと、レファレンス事例の他、国立国会図書館の各種データベースなどを検索し、関連資料を紹介してくれる。

れはっちの野望は、ウィキペディアタウンのみならず、みんなの調べもののトータルサポート。今回のアプリではそれを視野に入れ、スマートフォン向けアプリ／AIスピーカ付きロボットの開発にも着手する（?!）

## 使用データ

Wikipedia、レファレンス共同データベース。国立国会図書館デジタルコレクション、京都府オープンデータ

## データ形式

テキストデータ、空間情報

## 提供形態

webサービス

## 地域

特定なし（京都）



## • [ハッカソンに向けて]

※マップ情報に各データを取りまとめて、プロットする。

※課題：

アプリのインターフェースに音声インターフェース機能を兼ね備えたい・・・  
(れはっちの声が聞きたい。)

# アイデアに寄せられた意見

Q：何故音声インターフェイス機能をつけたかったの？

皆それぞれのれはっち像を持っていそうなので、どんな音声を付けるか悩ましいですね....。

A：相談事をするときの敷居を下げるため。親しみを持てるようにしたかったのです。